

# 青森県から北海道へ

氏名 遠藤 昌一

青森県上北郡野辺地町立野辺地中学校 → 北海道北斗市立上磯中学校

(期間：平成30年4月1日～平成32年3月31日)

## 1 青森県や上北郡，野辺地町の教育

- 『生徒指導の3機能』を活かした授業作り
  - ・自己存在感，共感的人間関係，自己決定の場を与えることによって，生徒が主体的に学習に取り組むことができるようにする。
- 導入・展開・終末の工夫
  - ・次の学びにつなげるために，活動の振り返りの場を設ける。
- いじめの積極的な認知と組織的な対応の徹底
  - ・地域・関係機関とも連携し，組織的に児童生徒の理解に努める。
- 話し合いを活かした学級活動の充実
  - ・話し合いをもとに合意形成を図り，活動や実践を振り返る活動を充実させる。

## 2 学校や地域の特色ある教育活動

【野辺地町の概要】 人口…約13,000人 面積…約81km<sup>2</sup>

教育施設…小学校3，中学校1

【野辺地中学校について】 1町1中学校であり，町内の3つの小学校から生徒がくる。全校生徒は約330人。

- 『家庭学習の手引き』の提示
  - ・年度当初に教科部会で『家庭学習の手引き』を作成し，生徒に提示する。また，学期で「家庭学習コンテスト」を行い，他の生徒にも参考にしてほしい取組の例を掲示する。
- リーダー性を育むための縦割り活動の充実（運動会など）
  - ・クラス単位でグループ（ブロック）を作り，3年生を中心に運動会に取り組む。3年生が事前に打ち合わせをし，1・2年生をまとめていく。
- 職場体験の充実
  - ・野辺地町全体が職場体験の受け入れに協力的であり，生徒にとっても有意義な職場体験をすることができる。

### 3 私が取り組んできた実践

- **さまざまな場面において、『生徒指導の3機能』を念頭に置く**
  - ・自己存在感，共感的人間関係，自己決定の場を与えることによって，さまざまな活動において，生徒の達成感や成就感，成功したことの喜びを感じられるようにしている。
- **生徒自身が課題を選べるようにしている**
  - ・担当している英語では，同じ内容に対し2つの課題を用意し，生徒にどの課題に挑戦するかを選ばせている。最近では難易度の高い課題に挑戦する生徒が増えている。
- **A L TやT Tの効果的な活用**
  - ・生徒が意欲的に学習に取り組めるように，A L TやT 2の先生と協力しながら授業を進めている。A L TやT 2の英語を最後まで聞き取ろうと諦めずに取り組む生徒が増えてきた。
- **ペアワークや教え合い活動の充実**
  - ・1人で課題に取り組む時間も確保しつつ，英作文や暗唱等で困ったことがあればお互いに助け合えるようにしている。
- **道徳におけるワークシートの工夫**
  - ・道徳のワークシートは，個人の考えを残すためのものと位置づけている。きちんとした文で書くことを強要せず，自分の言葉で思ったように書くことをねらいとしている。